



アフリカの紛争現場で感じた、  
つながること、

つなげて考えることの大切さ

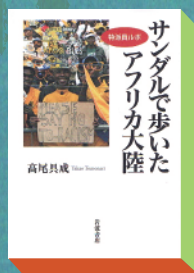
高尾 具成

Tomonari Takao



毎日新聞記者。1991年から広島支局、神戸支局、大阪本社社会部、東京本社外信部などに勤務。被爆者や阪神・淡路大震災被災者、米国同時多発テロ、アフガニスタン空爆による難民・国内避難民などを取材。2008年3月～2012年3月には南アフリカ・ヨハネスブルク支局で勤務し、2008年度には、ジンバブエ大統領選などのアフリカ報道でボーン・上田記念国際記者賞を受賞。2012年からは東日本大震災の被災地、岩手県釜石市に赴任。

著書に『サンダルで歩いたアフリカ大陸：特派員ルポ』などがある。



現代アフリカにおける  
紛争のリアリティ

現代アフリカはさまざまな紛争をどのようにつなげて解決・疲弊した社会をいかに再建してゆくのか、という困難な課題に直面しています。この講演会では、報道界と学界で活躍されているお二人に、この問題について講演していただきます。

2014年3月29日(土)

15:00～17:00

於：京都大学稲盛財団記念館3階 大会議室

○ プログラム ○

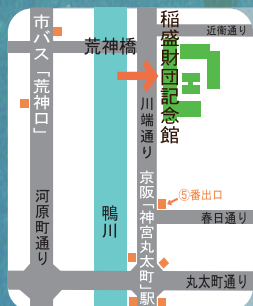
- 15:00 「アフリカの紛争の現在(いま)を考えるために」  
遠藤貢(東京大学)
- 15:30 「アフリカの紛争現場で感じた、つながること、  
つなげて考えることの大切さ」  
高尾 具成(毎日新聞社)
- 16:30 質疑応答
- 17:00 終了

アフリカの紛争の  
現在(いま)を考えるために

遠藤 貢

東京大学  
大学院総 Mitsugi Endo

合文化研究科教員。専門は、国際政治、比較政治、現代アフリカ政治。南部アフリカにおける政治体制変動研究を行って来たが、ここ10年ほどソマリアを中心とした「崩壊国家」に関する調査研究も行っている。主な共編著に『日本の国際政治学3 地域から見た国際政治』(2009年)など。



- ◆ 会場への経路案内
- ◇ 京阪「神宮丸太町駅」5番出口(出町柳方面)から北へ徒歩5分。
- ◇ JR/近鉄「京都駅」から市バス(205/17/4系統)で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分。または京都バス(17系統)で「荒神橋」下車すぐ。
- ◇ 阪急「河原町駅」から市バス(59/37/17系統)で「荒神口」下車、東(荒神橋方向)へ徒歩4分。または京都バス(17系統)で「荒神橋」下車すぐ。
- ◇ 地下鉄丸太町線「丸太町駅」から市バス(204/202系統)で「丸太町駅阪前」下車、北へ徒歩5分。

申込不要  
入場無料